

■ムガル帝国からイギリス支配へ - 南アジアの権力移行を記録した史料コレクション

東インド会社:インド植民地支配の基盤形成

- R・クライヴとJ・カーナック -

The East India Company: Laying the Foundations for British Colonial Domination of India, 1752-1774

インドがいかにしてイギリスの植民地支配下に置かれたかを探求する

本コレクションの資料は、東インド会社の商業的および政治的な勢力拡大が、いかにしてインド亜大陸におけるイギリスの植民地支配へと発展したのかを示しています。特に、影響力のあった二人の人物、ロバート・クライヴとジョン・カーナックの書簡をもとに、18世紀にムガル帝国が衰退する中で東インド会社がますます強大になっていった過程を明らかにしています。

このコレクションが対象とする時期には、1757年の決定的なブラッシーの戦い、「Black Hole of Calcutta」事件、1759年のオランダに対するイギリスの軍事遠征といった重要な出来事が含まれています。

ロバート・クライヴは1743年にマドラスの東インド会社に入社し、1755年にはセント・デイヴィッド要塞の総督に任命され、その後ベンガル総督に就任しました。彼はインドで莫大な個人資産を築き、イギリス支配の基盤を築く上で大きな役割を果たしました。彼の軍事的勝利であるブラッシーの戦いは、イギリスがインドに確固たる足場を築く決定的な要因となりました。

一方、ジョン・カーナックは1758年に東インド会社に大尉の階級で加わり、その後、東インド会社軍の最高司令官を務めました。1760年から1761年にかけて、彼はフランスの支援を受けたムガル帝国の軍勢を打ち破り、クライヴと連携しながら軍事的責任を交代で担いました。こうして、彼らは組織的にイギリスの影響力をインド全土へと拡大していきました。



大学・学術機関向け価格

FTE (学生数+教職員数)	3,000~4,999	5,000~9,999	10,000~19,999	20,000~29,999	30,001 以上
Archive 買い切り価格	価格は弊社までお問い合わせください				

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの**年間管理費 (Annual Hosting Fee)**は不要です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL:<https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail:info@kyokuto-bk.co.jp





このコレクションに収められた文書は、1757年から始まります。この年には、インドの歴史における決定的な戦いであるブラッシーの戦いが起こりました。ムガル帝国の軍勢はクライヴ率いるイギリス軍に敗北し、これによりクライヴはベンガルの支配権を掌握することとなりました。その後の100年間、東インド会社はイギリス王室の代理としてインド亜大陸を支配するようになりました。同社は、インドの天然資源を搾取するための過酷で搾取的な体制を確立しました。

本コレクションでは、イギリス統治の基盤が築かれた重要な過渡期を概観することができます。ロバート・クライヴやジョン・カーナックのような人物が、イギリスによるインド支配の礎を築いた時代です。文書には、クライヴとカーナックの軍事的戦績だけでなく、彼らが東インド会社の総督として果たした役割も記録されています。クライヴは、多くの植民地支配者と同様に、自らの地位を利用して莫大な私財を築きました。その後、東インド会社を巻き込んだ汚職事件に関与し、最終的には自殺に追い込まれました。

また、クライヴの統治が1769年から1770年にかけてベンガルを襲った大飢饉の規模を拡大させたかどうかについては、歴史家の間で議論が続いています。

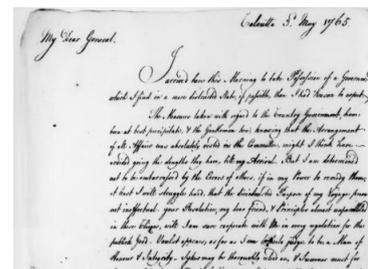
さらに、本コレクションにはクライヴが書いた個人的な書簡も含まれており、彼の生活や思索を知る手がかりとなります。これらの文書からは、彼がインドで蓄えた莫大な富をイギリスに持ち帰り、カントリー・エステートの建設・拡張に充てた様子が明らかになります。

■文書のタイプ別に全18パートに整理されたアーカイブ

1. Original correspondence, 1752-1774

サブシリーズ CR: 39冊、5つの封筒/束、2箱

この資料群は主に、クライヴの書簡(主に送信されたもの)を収めた複数の書簡帳(レター・ブック)で構成されています。対象期間は1752-59年、1765-67年、1767-74年であり、これはそれぞれクライヴのインド滞在第1期、第2期、第3期(最終期)に対応しています。これにはカルカッタ占領、ブラッシーの戦い、ベンガル総督就任(第1期・第2期)の期間、そして最終的にイギリスへ帰国してからの時期も含まれます。このサブシリーズには、書簡の索引や台帳、ペルシア語の書簡、その他の未製本の書簡も含まれています。



関連資料: クライヴの受信書簡(補完資料)は大英図書館 MSS Eur G 37 に所蔵されています。

検索補助: ベンガル総督第2期(1765-67年)の書簡帳の索引はCR7/1に収録されています。

使用言語: 英語、ペルシア語、フランス語、マラーティー語、ベンガル語

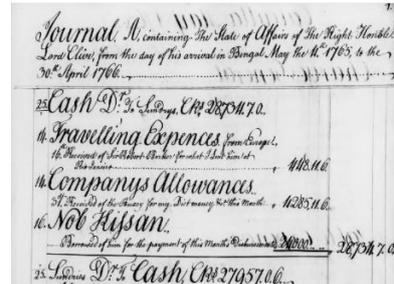
- | | |
|--------------------------|-------------------|
| i. ヨーロッパおよびインド国内向けの一般書簡帳 | viii. 書簡索引・リスト |
| ii. 国内向け書簡帳 | ix. 国内書簡の送受信台帳 |
| iii. ヨーロッパ向け書簡帳 | x. ペルシア語書簡 |
| iv. イギリス国内の個人向け書簡帳 | xi. インド国内送信書簡のノート |
| v. イギリス国内の会社役員向け書簡帳 | xii. 国内書簡の議事録 |
| vi. インド向け書簡帳 | xiii. その他書簡 |
| vii. イギリスからインドへの書簡帳 | |

2. Contemporary transcripts [of correspondence, 1756-1760]

サブシリーズ CC: 31 冊

クライヴのインド滞在第 2 期(1756-60 年)の書簡の同時代筆写本(原本は現存していない可能性)。これには、私信(1756-60 年)の筆写本、および公式書簡帳(1758-60 年)の筆写本と重複筆写本が含まれています。この公式書簡帳は「総督によって保管されるべき国内書簡(Country correspondence)」と題されています。一部の巻の表紙には 1763 年に筆写されたことを示す記載があり、この年にクライヴの公式書簡が東インド会社の査閲に提出されたことを示唆しています。

- i. 私信の筆写本(1763-64 年)
- ii. 総督の書簡筆写本(第 1 シリーズ)(1763 年)
- iii. 総督の書簡筆写本(第 2 シリーズ)(1763 年)
- iv. 総督の書簡筆写本(重複分)(1763 年)



3. India financial papers, 1752-1774

サブシリーズ CF: 49 冊、1 束

クライヴの個人的・公式な財務記録。インドとイギリス双方の記録を含むが、主にインドでの財務活動が中心。ただし、国外・国内取引の区別が必ずしも明確ではなく、異なる種類の財務記録が混在していることがある。

- i. インド会計簿(1757-59 年)
- ii. 一般会計簿(イギリス・インド)(1763-74 年)
- iii. 「クライヴ卿のベンガルにおける事業」会計簿(1765-66 年)
- iv. インド会計簿の同時代筆写本(1757-58 年)
- v. 一般会計簿(イギリス・インド)草稿(1764 年、1769-74 年)
- vi. ダイヤモンド取引台帳(1755-57 年)
- vii. インド会計台帳(1757-59 年)
- viii. 一般会計台帳(イギリス・インド)(1763-74 年)
- ix. 「クライヴ卿のベンガル事業」台帳(1765-66 年)
- x. インド会計台帳の同時代筆写本(1757-58 年)
- xi. インド会計簿(1759-60 年)
- xii. 一般会計現金出納帳(イギリス)(1763-64 年)
- xiii. 「クライヴ卿のベンガル事業」現金出納帳(1765-66 年)
- xiv. 雑多な現金出納帳(1756-63 年)
- xv. 請求書帳簿(1756-58 年)
- xvi. 会計書類の束(1752-58 年)

4. Civil administration of Bengal papers, 1758-1766

サブシリーズ CA: 5 冊、1 封筒

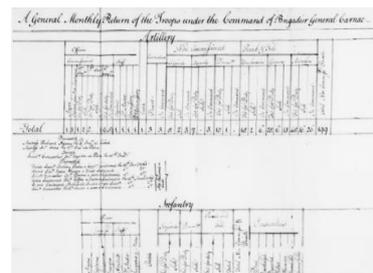
この資料群は、クライヴのベンガルにおける文民統治への関与を示すものです。規模は大きくないものの、財政、人口統計、貨幣改革、貿易に関する記録が含まれています。これらはクライヴの 2 度のベンガル総督時代(1758-60 年、1765-67 年)に関連していますが、ほぼ第 2 期(1765-67 年)に集中しています。

- i. 歳入報告および会計記録(1758 年、1765 年-1766 年)
- ii. 官僚の名簿(1766 年)
- iii. 貨幣改革・貿易に関する文書([1764 年頃]-1766 年)

5. Military administration of Bengal papers, [c.1750s] -1771

サブシリーズ CB: 7 冊、6 封筒、4 束、1 ファイル

クライヴの軍歴は、彼がインドに到着して 2 年後の 1746 年 9 月、フランス軍によるマダガスカル占領の時期に始まりました。1747 年に東インド会社軍の少尉として最初の任官を受けた後、中尉、大尉へと昇進し、1755 年には正規軍の中佐に任命されました。彼は 1767 年にベンガルの最高司令官および総督として軍歴を終えました。



この資料群の大部分は、1750年代頃-1771年にかけての軍政の一般的な運営に関する文書ですが、一部には1756年のクライヴ自身の軍事行動に関する記録も含まれています。ただし、文書数は少なく、初期の軍歴や最初のベンガル総督時代(1758-60年)の記録はほとんど残っていません。一方で、第2期のベンガル統治(1765-67年)の記録は比較的多く残っています。また、1764年および1771年の日付が記された文書には、クライヴがインドにいなかった時期の出来事が含まれていますが、彼のインドでの軍歴に関連するものと考えられます。

- | | |
|-------------------------------|--------------|
| i. 軍事報告(各部隊・戦死者報告) | iv. 軍規・一般命令 |
| ii. 軍事報告(フォート・ウィリアムおよびベンガル全域) | v. インドでの軍事作戦 |
| iii. 軍事人員リスト | vi. 雑多な軍事文書 |

関連資料: クライヴの軍歴に関するより包括的な記録は、サブシリーズ CR および CC に収録されています。

6. Papers of the Calcutta Council and its committees, 1757-1768

サブシリーズ CSA: 10冊、1封筒

この評議会の正式名称はフォート・ウィリアム評議会(カルカッタ)であり、クライヴはベンガル総督として当然職(ex officio)でその議長を務めました。1766年の第2期総督時代には、14人の上級東インド会社職員で構成されていました。

- | | |
|-------------------------|--|
| i. 評議会の議事録・決議・書簡(1765年) | iv. 査察委員会の議事録(1766年) |
| ii. 議事録索引(1766年) | v. 評議会および委員会の雑多な書簡・文書(1757-59年、1766-67年) |
| iii. 選抜委員会の議事録(1765年) | |

7. Records of the Calcutta mayor's court, [c.1765] - 1766

市長裁判所(Mayors' Court)は、イギリスの司法制度を東インド会社の各拠点に導入するため、王室勅許によって設立された裁判所でした。カルカッタの裁判所は、1726年の勅許(1753年改正)によって設立されました。この裁判所では、市長1名と陪席裁判官9名が民事事件を審理し、遺言検認および遺産管理権限も付与されていました。1774年の議会法によって設立された最高裁判所によって、この裁判所は廃止されました。この資料群には、1765年頃-1766年の市長裁判所の勅許および会議の記録が含まれています。

8. East India Company records, 1752-1772

サブシリーズ CD: 6冊

東インド会社は、1600年にエリザベス1世の勅許状によって設立され、1858年にインド統治権がイギリス政府に移管されたことで事実上の機能を停止し、最終的には1874年に解散しました。同社は、王室勅許や議会法によって規制されつつ、単なる貿易会社から南アジアにおける主要な領土・軍事勢力へと発展しました。ロンドンの本部(East India house)では、株主総会(the Court of Proprietors)と取締役会(the Court of Directors)が会社運営を担当していました。

このパートには、東インド会社の公式記録の同時代筆写本が含まれています。

- 勅許状(1753年頃-1758年頃)
- 条約、勅許(farmans)、協定(1757年頃-1765年9月以降)
- 会計帳簿(1752-72年)

使用言語: 英語、ペルシア語

1763	1764	1765	From 1765 to 1766
83,224 8	100,146 1 0	85,447 7 5	272,370 19 4
40,102 5	82,000 6 9	53,266 19 3	38,049 19 6
670 1 4	176 2 11	2,222 5 5	294 7 6
87,083 7	163,600 12 4	913,908 12 1	310,715 16 4
59,806 10 9	146,400 14 6	510,923 5	63,449 3 9
9,560 5 9	6,362 0 6 10	1,632 2 9 17 1	574 6 5 0 1

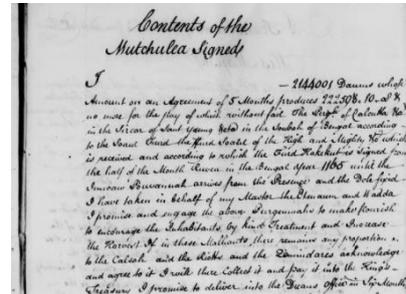
John Tomkyns
Assistant Inspector-General.

9. Jagir papers, 1758-1767

サブシリーズ CE: 2 束、1 冊

Jagir とは、1759 年にベンガル太守(ナワーブ)Mir Jafar からクライヴに与えられた年金(30 万ルピー、または 2 万 7,000 ポンド相当)です。これは、皇帝の息子(Shahzadah)による攻撃からベンガルを守った功績に対する報酬として授与されました。

この Jagir は、カルカッタ周辺地域の土地収益を基盤としており、クライヴの個人財産を大幅に増やしました。しかし、この利益が東インド会社取締役会との対立の火種となりました。この資料群には、Jagir の原本証書およびその後の管理に関する契約書や書簡(1758-67 年)が含まれています。



10. Acquired India papers, 1727-[c.1763]

サブシリーズ CG: 7 冊、1 封筒

クライヴのインド勤務以前および在任中に活動した東インド会社職員の文書を収録。

- i. Henry Harnett の日誌(1727 年-1729 年)
- ii. Henry Harnett の台帳(1727 年)
- iii. Henry Doidge および他の人物の航海日誌(1757 年-1759 年)
- iv. William Dobbins の文書(1760 年頃-1763 年頃)



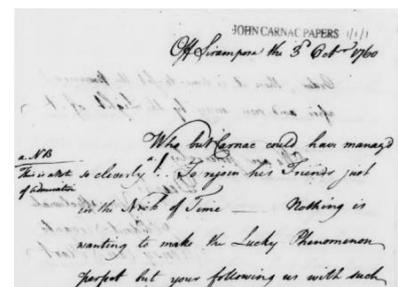
これらの文書がこのコレクションに含まれる経緯は明確ではありません。しかし、クライヴがインド在任中に個人的または公式な立場で取得・継承した可能性が高いと考えられます。

11. Supplementary papers concerning the trial of Nandakumara

1787-88 年に作成された、初代ミントー伯爵のインド関係文書。元ベンガル最高裁判所長官 Sir Elijah Impey の弾劾裁判(1775 年の Maharaja Nandakumara の偽造罪裁判の処理に関する責任)に関する書簡やその他の資料が収録されています。

12. The correspondence of Brigadier-General John Carnac, 1760-1769

ジョン・カーナックは、1758 年に東インド会社軍の大尉として入隊する前に、イギリス陸軍第 39 歩兵連隊で従軍していました。1760 年から 1761 年にかけて、司令官として、ムガル帝国の皇帝シャー・アラム 2 世のフランス支援軍と戦い、最終的にビハール近郊で勝利を収めました。



1764 年に准将に昇進したカーナックは、再び東インド会社軍の指揮官となり、1765 年にマラーター軍を撃破した後、その年の後半にロバート・クライヴへ指揮を引き継ぎました。その後、1776 年-1779 年にボンベイ評議会の委員として活動し、1778 年のブネー遠征では監督委員会のメンバーを務めました。しかし、1779 年のワードガオン条約に関与したために東インド会社を解雇されました。この条約により、東インド会社は過去 4 年間に獲得した領土をすべて放棄することを余儀なくされました。それにもかかわらず、カーナックはインドに留まり、1800 年 11 月にマンガロールで死去しました。

本コレクションは、カーナックのインド駐在時代の初期(1760-67 年)に焦点を当てた約 2,000 点の書簡を収めています。この時期は、4 人の異なるベンガル太守が次々と交代し、デリーのムガル皇帝も交代するなど、政治的な大変動の時期でした。また、1763-66 年の書簡が多く含まれており、クライヴがインドを不在にしていた 1760 年 3 月-1765 年 4 月の出来事を補完する内容となっています。同時に、クライヴが第 3 次インド赴任(最終任期)をどのように進めたかを理解する手がかりともなり、二人の英国高官が東インド会社の新たな商業・政治戦略をどう実行したかを比較する機会を提供します。

13. Clive's estate administration papers, 1761-1780

シリーズ E: 領地管理(1761-80年)

1763年-1780年の財務および管理記録であり、クライヴのイギリス(ウェールズ、イングランド、アイルランド)の領地に関する文書を含みます。ただし、すべての所有地の記録が網羅されているわけではありません。

- | | |
|-------------------------|---|
| i. 一般領地管理記録(1766-68年) | iv. モントフォードおよびオークリー・パーク領地(1768年頃-1773年) |
| ii. アスクトレック領地(1767-71年) | v. オークハンプトン領地(1771-78年) |
| iii. ウォルコット領地(1763-66年) | vi. クレアモント領地(1771-80年) |

※1774年のクライヴ死後の文書も一部含まれています。

関連資料:

- ◇ より詳細な領地関係の記録はシュロップシャー公文書館に所蔵。
- ◇ クライヴの弁護士ジョン・アシュビーの文書(イギリス国立公文書館 C109)にも関連記録あり。

14. Clive's household management papers, 1755-1775

シリーズ H: 家政管理(1755年-1775年): 27冊、1封筒

クライヴ家の家政に関する会計帳簿、日誌、台帳(1755年-1775年)を収録。クライヴ自身だけでなく、家族や使用人の管理に関連する記録も含まれています。文書は、主に英語、一部ラテン語がつかわれています。

- | | |
|---------------------------|--|
| i. 一般家計・個人会計帳簿(1760-64年) | ix. Edward Crisp によるクライヴとの現金取引台帳(1767-74年) |
| ii. 衣類購入帳簿(1760-61年) | x. ワイン貯蔵台帳(1773-75年) |
| iii. 家具・設備購入帳簿(1760-61年) | xi. フランス旅行中の家政メモ(1768年) |
| iv. コンドーバー邸家計帳簿(1762-63年) | xii. バークレー・スクエア邸およびその他の物件の目録(1760-70年頃) |
| v. ウェストコム邸家計帳簿(1769年) | xiii. その他文書(1755-70年頃) |
| vi. 一般家計・旅行費帳簿(1771-73年) | |
| vii. 執事日誌(1767-68年) | |
| viii. 執事台帳(1767-68年) | |

関連資料:

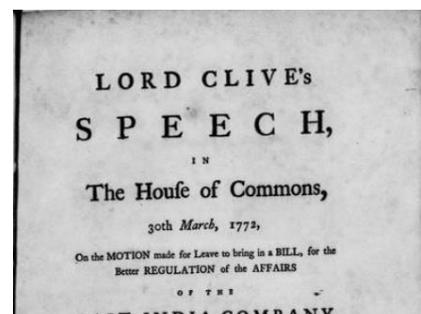
- ◇ 家政・家族関係のさらなる会計記録は、**F2、F8、F12のシリーズ(台帳、現金出納帳)**に含まれる。
- ◇ 追加の財産目録は T シリーズに収録。

15. Clive's political papers, 1764-1775

シリーズ P: 政治関係文書(1764年-1775年): 3冊、4ファイル、1封筒

クライヴは 1754年のコーンウォール州ミッチェル区の選挙で敗北した後、1761年から死去する 1774年まで、シュルーズベリー区の庶民院議員を務めました。彼の政治経歴は 10年以上に及びますが、この資料群に含まれる文書は比較的少なく、1774-75年の総選挙および 1772-73年の議会調査に関するものが中心です。

- i. 選挙投票記録(Poll books)
- ii. 議会調査関連文書
- iii. 雑多な政治関係文書



16. Clive's attorneys' papers, 1764-1768

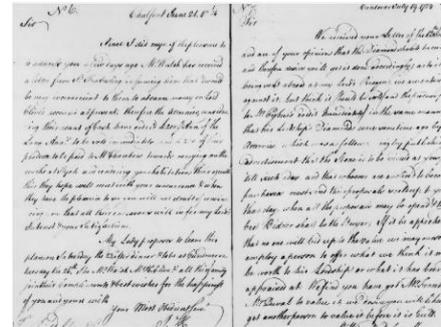
シリーズ A: 弁護士関係文書(1764年-1768年): 5冊、1封筒

この資料群には、1764年-1768年の議事録(Minutes)および書簡が含まれています。これらは、クライヴがインドに滞在中、イギリスで彼の財産管理を担当していた弁護士たちによる記録です。

- i. 議事録(1764-68年)
- ii. 書簡帳(Letter books, 1764-68年)

関連資料:

◇ 家政・家族関係の弁護士会計記録は H9 シリーズに収録。



17. Clive's executors' papers, 1774-1796

シリーズ T: 遺産管理文書(1774年-1796年): 26冊、2点

この資料群には、クライヴの遺産を整理するために遺言執行人(Executors)が作成した文書(1774年-1791年)が含まれます。イギリスおよびインドの遺産整理に関する議事録、会計帳簿、台帳、日誌、財産目録、図書目録などが収録されています。

- i. 非公式議事録・議事録(1774年-1791年)
- ii. 会計帳簿
- iii. 現金出納帳
- iv. 台帳
- v. 日誌(Journals)
- vi. 収入・支出見積り
- vii. 財産目録(1775年頃)
- viii. 図書目録(1774-76年)

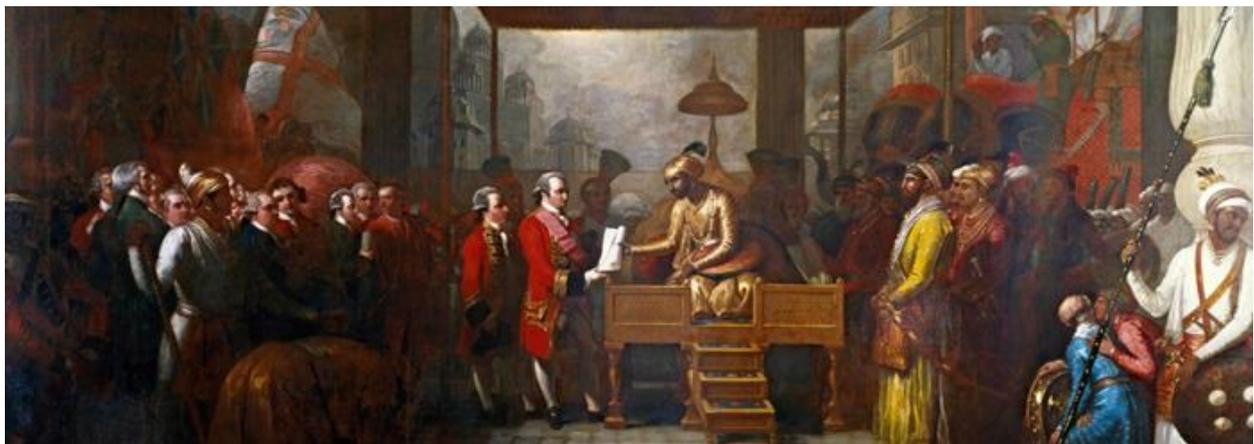
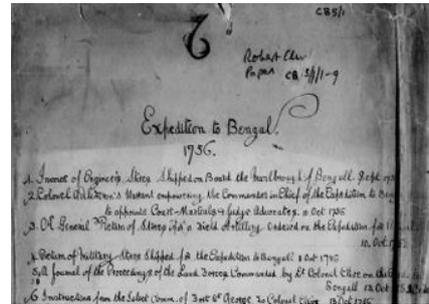
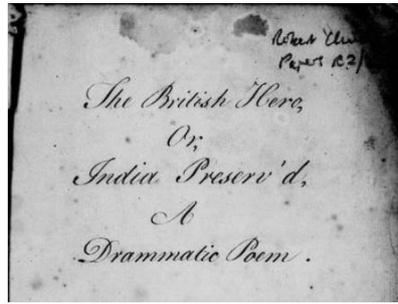
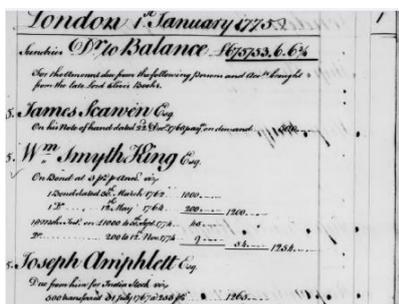


18. Clive's personal papers, 1739-1775

シリーズ R: 個人文書(1742年-1775年): 9冊、4封筒、2束、1ファイル

この資料群には、クライヴの私的な蔵書に関する原稿や文書、地元活動支援、バス勲章(Knighthood of the Bath)に関する文書、請求書、債券、その他の個人会計記録、個人的な書簡や収集文書が含まれています。文書は英語、一部フランス語で書かれています。

- i. 図書目録・リスト
- ii. 詩、戯曲、原稿
- iii. 個人的な書簡
- iv. 雑多な個人文書
- v. 収集された文書



British Online Archives の詳細お問い合わせは弊社まで

 **日本総代理店 極東書店**

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <http://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp